

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	78	—	事業名	平成こども塾事業	担当部課	建設部みどりの推進課
------	----	---	-----	----------	------	------------

基本情報	総合計画	基本方針	1	万博理念を継承し、自然環境にこだわるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	7	農のある暮らし・農のあるまちを支える	款	9	教育費
		施策の進め方	-		項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	-		目	1	社会教育総務費
		政策分類	-		大事業	9	平成こども塾事業
	その他(関係法令、要綱等)		-				
事業開始の背景、経緯等		平成11年に策定された第4次総合計画の柱の一つ、環境緑地系プロジェクトとして「長久手田園バレー構想」が掲げられ、平成14年度より「長久手田園バレー事業」が実施された。 その子ども版プロジェクトとして平成18年4月に「長久手町(現市)平成こども塾」がオープンした。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・平成こども塾の施設管理・運営等を行う。 ・地域の環境や自然についての学習活動 ・学習活動を通じた地域住民との交流 ・学校連携活動					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 小、中学生					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 里山の豊かな環境を生かした体験活動による、子どもたちの生きる力の育成					
	事業を 構成する 事務事業	① 平成こども塾管理事業	改善・見直し	④			
	② 平成こども塾企画事業	改善・見直し	⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算		12,645	12,365	12,426	14,614
			決算		12,035	11,590	11,647	
	人件費(B)	千円	決算		24,773	15,405	21,164	
総コスト(A)+(B)	千円	決算		36,808	26,995	32,811		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 安心安全な施設等の維持管理	%	目標	-	100	100	100	100
			実績	-	100	100	100	
	B 参加者の満足が得られること	%	目標	85	85	85	85	85
			実績	98	98	98	98	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 医療機関で治療をするようなケガをさせない								
B おおむね参加者の満足が得られること(満足度85%)								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 周辺市町村で子どもを主体とした食と農に関する取組を実践する施設があるという例は聞かない。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ある程度達成できている。 学校連携プログラムの評価、また専門プログラムの評価も高い。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 施設の開館12年を経過し、今後徐々に老朽化することが予想されるため、適切な管理と予算の確保が必要である。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域の自然環境や文化などについての学習活動ができるよう、施設の維持管理等をする。 地域で活動する団体等と連携をすることにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後目処に ・プログラムの講師の若返りを順次図る。 ・劣化が激しい施設の修繕を、プログラムに影響の出ないよう計画的に実施する。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		平成こども塾事業									
番号	①	事務事業名	平成こども塾管理事業	款	9	項	4	目	1	大	9	中	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成18年度	終了（予定）年度	-								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・小中学生を対象に ・今までどおり、安心して安全な体験プログラムが実施できるように、施設管理・プログラム運営を行います。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・安心安全な状況でプログラムを体験させる。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		9,010	8,653	8,714	10,772
		決算		8,496	7,942	7,964	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 一般事務嘱託員報酬						4,213	千円
② 消耗品費						905	千円
③ 光熱水費						783	千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
安全な活動の実施	回	目標	200	200	200	200	200
		実績	205	200	204	205	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
・救急車を呼ぶことも大げがをすることもなく1年間の事業を終了できた。・今後もけがの無いように予防安全に努めつつ、プログラムの内容を充実させていく。							
実績例：緊急情報配信メール委託事業1件							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

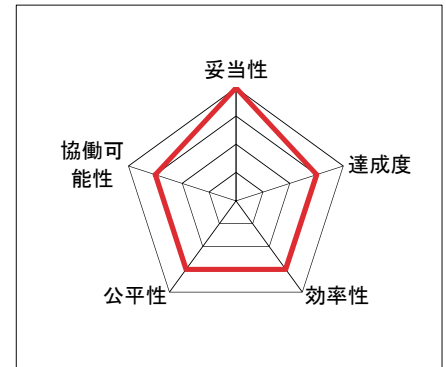
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・長久手市は、転入してくる若い住民が増えており、子どもたちの数も増えている。そのため、平成こども塾活動の存在意義も高まっている。これまでと同様に里山里地といった地の利を生かした、体験活動や文化の継承活動を行っていくことが重要となっている。
---

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 現在は、長久手里山クラブの活動拠点にもなりつつあるため、施設の管理運営を適切に行うとともに、活動エリアを少ずつ拡大するとともに、来館者増を見据えた、駐車場の区画線（ロープの張り直し）や舗装化を検討することにより、駐車台数を増加させた。
(何をどのような状態に改善したのか) ・サポーターの育成は、木工作品制作、サポーター研修も兼ねて大人向けのプログラムを実施した。 ・こども塾に隣接した里山で活動している里山クラブとの連携は、具体的にはこれからだが、こども塾周辺の里山を整備したエリアは少ずつ拡大している。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) ・里山の自然を生かした農作業、創作、自然観察などを更に充実させるような事業運営、施設管理を行う。
---

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) ・施設・設備の劣化・老朽化
---

### 改善・見直し

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) ・プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を進める。 ・地域で活動する団体等と連携することにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの質的向上と拡大を図る。 ・里山里地を活用した体験学習（学校連携・委託事業）を充実させる。 ・評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。 ・劣化が激しい施設・備品の修繕を計画的に実施する。 ・上水道の凍結対策及び衛生面面向のため外部水道口の温水化を行う。
--

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		平成子ども塾事業										
番号	②	事務事業名	平成子ども塾企画事業		款	9	項	4	目	1	大事業	9	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成18年度			終了（予定）年度		-						

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・長久手市民を主体とする小中学生とその保護者。 ・環境団体、地域で活動する団体（サポート隊）や専門家の指導の下、様々な体験活動を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・子どもたちの感性や、生きる力、世代を超えたコミュニケーション能力を育む。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		3,635 3,539	3,712 3,648	3,712 3,683	3,842
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 平成子ども塾創造スタッフ委託						2,108	千円
② 平成子ども塾講師報償金						1,575	千円
③							千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
計画事業の実施件数	事業	目標	200	200	200	200	200
		実績	205	200	200	205	
参加者の満足が得られること	%	目標	85	85	85	85	85
		実績	98	98	98	98	
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画事業の実施件数は予定通り実施することができた。</li> <li>参加者の満足度は、目標を上回り評価は全体的に高かった。</li> </ul> 実績例：専門プログラム「里山冒険クラブ」 年間5回実施							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

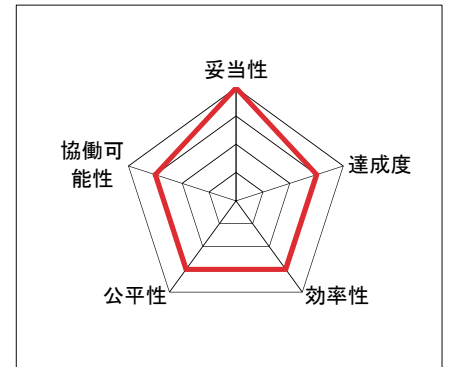
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・長久手市は、転入してくる若い住民が増えており、子どもたちの数も増えている。そのため、平成子ども塾活動の存在意義も高まっている。これまでと同様に里山里地といった地の利を生かした、体験活動や文化の継承活動を行っていくことが重要となっている。
---

## 5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞ 学校、サポート隊、専門プログラム受託者、地域で活動する団体等と綿密な連携をすることにより、里山での活動をより良いものにするとともに、体験スペースの拡充を図っていきます。
(何をどのような状態に改善したのか) ・プログラムの内容、進行方法や参加者の理解度等の改善を常に意識した運営を実施した。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) ・里山の自然を生かした農作業、創作、自然観察など、季節に応じた多様な体験（学校連携約70回、サポート隊プログラム約100回、その他約30回）をすることにより、子どもたちの感性や、生きる力、世代を超えたコミュニケーション能力を育む。
--

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) ・活動スペースが手狭になっていること。 ・活動を支えるボランティアグループの高齢化。
---

## 7. 今後の方向性

### 改善・見直し

【コメント】 (改善の方法、今後の具体的展開など) ・プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を進める。 ・地域で活動する団体等と連携することにより、子ども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。 ・里山里地を活用した体験学習（学校連携・委託事業）を充実させる。 ・評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。
--